

【街頭活動より】

2050年には人口は半分

人口減少対策は一朝一夕にならず やれることは何でも

◇各地での豪雨被害について、人間の排出する二酸化炭素など温室効果ガスの増大による地球の温暖化の影響という説が有力です。特に化石燃料を使った発電や工業化は、ブレーキを踏んだとしても止まりません。すぐに対策の効果が出るものではないです。

◇今日もこの交差点(恵美須町のフジの横の「栄町港交差点」で行っています)の「回収場所」には、指定「ごみ袋」で出されているけど分別が充分になされていないとして、「回収しません」という黄色いシールが貼られたごみ袋がいくつか残されています。一方、その脇には、地域の方やボランティアの方が交差点の花壇の植え替えに使ったポットが綺麗に重ねておいてあります。

◇小さなことでもみんなが取り組むことによって、解決の道は見えてくるものだと思います。危険な空き家を空き地に、空き地を親水性の舗装面に、あるいは緑地に。そういう小さな取り組みを各地で少しずつ進める事によって、水害の被害は低減できます。優良農地を保全することもまた被害を少なくできるはずだと思います。

◇緑のダムという言葉もありますが、激甚化する大雨による被害は森林の管理により軽減すると言われています。森林は、材木市場への供給だけでは再生産できず、林野の持続可能な整備はできておりません。森林環境譲与税という仕組みも興りましたが、食糧安全保障の観点からも国土の適切な管理と保全の必要性はますます高まると思っています。

◇言うまでもなく、環境問題への取り組みも一朝一夕にはなりません。同様に人口の都市部への偏在や少子化の解決も、一朝一夕にはなりません。思い付くもの全てを総動員で行うべきかと思えます。

◇「産めよ増やせよ」ということ、言葉尻を捉えて批判する人が居るかもしれませんが、産みたくても産めない人がおられ、結婚さえも躊躇する人がおられるわけです。結婚しない理由の大きな原因の一つが経済的理由です。宇和島の経済(特に労働市場がどうかという)、都会の食やコンビニで働く外国人の時給よりも安

い賃金で働かれている方が多く居られます。生活費や子育て費用等の支出が少なければ、賃金が今のままで解決の道はあるかも知れませんが、子育てにお金が掛かるわけで、都市部との賃金格差の解決が必要ということになります。一方、それを所得再配分の見直しで解決しようとするれば、税負担が増す層が発生し、労働意欲が大きく損なわれることになるかも知れません。地方の産業の生産性を上げ、地方の賃金水準を上げていかなければ、我が子にこの地で生きること勧めにくいのが実際ではないでしょうか。いかに愛郷心に溢れていても、この地で結婚して子育てをすることが選択し辛い選択肢であることは想像に難くありません。

◇地域の所得水準を上げていく。子育て支援策の拡充。結婚できない理由の「適当な相手にめぐり合わない」への支援策。やれることはなんでもやろうという感覚になってしまっています。そう考えると、今年間1億6千万円を越える収支差額が予想されている伊達博物館を建て替えることは見直した方が良いのかと思うのですがいかがでしょうか。

税金の使い道を決めるのは、市民のお一人お一人です。それが、自由民主の国では当たり前なのです。だから、伊達博物館整備の可否を問う住民投票はやるべきだと今も考えています。(7月19日の街頭活動より)

何にお金を使うべきか

健康と環境を守るための投資を

◇トライアスロンという「鉄人レース」なんていう大会のCMがあったりして過酷だと思われがちですが、「ゆっくりに長く」の運動習慣があればゴールにたどり着ける健康スポーツだと私は思っています。

◇以前から、健康長寿で地域を元気にと訴えてきました。健康寿命と平均寿命の差、つまり医療機関や介護サービスのお世話にならないで過ごせる時間をいかに伸ばすかが大事です。「ピンピンころり」と昔から言います。贅沢を言えば、最期に少しでもだけお別れの時間があれば良いように思います。「生涯現役」でいたいと思っています。「介護保険のお世話になるべくならないように」と思っています。不慮の事故や避けられない病で介護が必要な身体になった場合に社会に余力があるよう、みんなが健康維持に投資

をして、動ける身体を保つことにお金を掛けるべきだと考えます。生活習慣、食事に注意し運動を生活に取り入れて、個々の健康寿命をいくらかでも延ばすことができれば、税金も保険財源も節約ができます。当然、自己負担分の節約もできます。市民の健康への投資を促すために税金を使うべきです。それが正しい政策選択です。

◇あるいは、「環境に優しい生活を心掛ける」「ポイ捨てを無くす」「ゴミを少しずつ拾ってその処理を続ける」という生活を選択するための背中を押すような政策を選ばなければなりません。それが、私が思う優先して取り組むべき政策課題です。

◇また、個人的に、所得の高い方で医療費無償化や給食費無料化の対象とする必要はないとは思いますが、(国が制度として無償化を決められるのであればしかたないと思います)周辺の自治体(全国で)、18歳まで医療費無償化であったり、学校給食の無料化や高校生への給食提供をしたりなど、子育て支援を充実させています。それなら、宇和島でも国が制度見直し(たぶん)をするまでの間、地方自治体として「踏ん張る」必要があるのではないのでしょうか。

◇大阪府を中心とした関西圏で「私立高校の授業料無料化」も話題になっています。そこまでという思いもありますが、公教育にかかる費用の方が私立よりも高いというデータもあるよう根拠はあるようです。しかし、宇和島のように私立の進学先を選びにくい地域では、「公立学校教育の質を上げる」ことで他の地域と対抗する他ないでしょう。

◇そこで問題になるのが、そのような制度を作っても、制度の支え手不足の問題です。定年が延びていますが、20歳から60歳少々までの支える側の世代の人数はどんどん減ります。60歳少々から100歳までの期間が40年と似たほどのものになりますから、年数と人数のかけ算にしても、健康寿命の延伸や働ける人にはいつまでも働いてもらって、いわゆる支える側に少しでも力を貸してもらって社会にしていかなければならないことが判ります。

◇70歳過ぎてトライアスロンに参加しはじめ90歳過ぎた今でもアイアンマンレース(4kmほど泳いで200kmほど自転車、最後にフルマラソンなんていう)を完走してしまう方が居られるのです。とにかく、身体を動かし、働き続けませんか?ボランティアでも家族の手伝いでも何でも良いのです。そうすることで社会のコストを低減することができるのです。宇和島で元気に生きるそんな地域にしたいと思っています。(9月11日の街頭活動より)



2023年9月

武田元介ニュースレター Vol.37

黎明 REI MEI

【プロフィール】

昭和36年1月生まれ 愛媛県宇和島市出身
愛媛県立宇和島高等学校卒
岡山大学資源管理学研究室卒(学士)
昭和58年柳加ト吉 営業本部/東京支店
宇和島漬物食品(株)勤務(現職)
1994年 (社)宇和島青年会議所 理事長
2000年 (社)日本青年会議所 愛媛ブロック会長
2001年 宇和島市補助金等検討委員会 委員長
2003年 宇和島市女性問題研究委員会 副委員長
2004-5年度 宇和島ロータリークラブ幹事
2013年 宇和島市議会議員
2015年 愛媛平成市議の会 事務局長
市議会産業建設委員会 副委員長
愛媛平成市議の会 監事
市議会教育環境委員会 副委員長
2016年 市議会厚生委員会 委員長
2017-19年 市議会副議長
2019-21年 市議会副議長
2021-23年 市議会厚生委員会 委員長
現職 宇和島トライアスロン協会 会長
現職 愛媛県トライアスロン協会 副会長
現職 NPO法人 移植への理解を求めの会 理事
現職 宇和島法人会 監事
現職 宇和島市観光物産協会 理事

【趣味】マラソン・トライアスロン・家事・育児・読書



いいもんなんよ!ウルトラ行脚



えひめ政経セミナー



愛南トライアスロン



宇和島青年会議所創立記念例会



宇和島法人会総会



東高定時制卒業式



穂積マラニック200フィニッシャーと



和霊神社夏季大祭

あなたも「武田元介ニュースレター 黎明」の読者登録しませんか?~他人事でなく自分事~
読者登録していただきますと、「武田元介ニュースレター 黎明」を毎号(年4回の予定)お届けいたします。是非、下記までお申し込みください。
メール motosuke.takeda@gmail.com
FAX 0895-24-5610

皆さんの声を聞かせてください
メール motosuke.takeda@gmail.com
FAX 0895-24-5610
皆様で自主開催されるミニ集いや座談会に是非参加させていただけたらと思います。[ママ友が集まる会・ご近所やスポーツ仲間が集まる会]など、どんな会でもかまいません。是非伺わせていただいております。

